

みんなとともに笑顔いっぱい — 「101」 新たなるステージへ —



みんなとともに



東日本大震災から10年の節目を迎えようとしている今、これで一区切りなのかと思っていたら、それは甘かったようです。13日(土)の夜、突然の緊急地震速報と大地震に見舞われました。本校も落下物等がありました。14日(日)に職員が参集し、子どもが安心して過ごすことのできるよう、環境を整えました。ご家庭での被害が大きかった皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。



〈令和2年度「本校教育活動」の検証 その5〉

「意見文」への取り組みの成果はでているか — web版「文集 すかわ」の発刊について—

この「学校だより」でも、「週末作文のススメ」として、子どもたちが書いた「意見文」を紹介してきました。準備が整いましたので、全員の作文を「文集 すかわ」として、本校のwebページに掲載します。今年度の「学びの成果」として、ご覧いただきたいと思います。

【今年度「意見文」に取り組んできた理由】

- 正解のない課題について、「自分の考えを持ち、その考えを分かりやすく伝える力」を身に付けさせたいから。
 - 国語科で学んだ「文章の型」を活用する場をつくることにより、「学力向上」にも結び付けたいと考えたから。
- ※ わかば学級、1・2年の子どもたちは、実態を踏まえ、「生活文」に取り組んできました。

【今年度の「文集 すかわ」の特徴について】

- web版「文集 すかわ」として、本校webページにPDFファイルを掲載しますので、必要に応じて各ご家庭で印刷をしてください。
 - 学校では、保管用として「文集 すかわ」を5冊作成します。
(図書室閲覧用…3冊、校長室保管用…1冊、担当保管用…1冊)
- ※ なお、児童氏名は「カタカナ表記」にしていますが、「webページ」への掲載に支障のある方は担任までその旨を連絡帳等で伝えてください。(掲載の都合で2月24日(水)までをお願いします。)

〈分析〉 この取り組みへの“成果”としては、「立場」と「理由」を明確にして“その子らしい作文”を書くことができていること、「一つ目、二つ目…」 「はじめに、次に…」と「理由の述べ方」に「工夫」が見られることがあげられます。
なお、「話し言葉」と「書き言葉」の違い、「接続語」の使い方など、さらに指導をすべき“課題”も見えてきました。

【校長のつぶやき】 その58 「『小さな読者』からのエール」

「学校だより」を読んでくれている「小さな読者(3年生)」が書いた「作文(手紙)」が届きました。私の心が、ぱっと明るく元気になる内容だったので、紹介をさせていただきます。

「校長先生の みんなとともに」

わたしは、清明だよりが配られると、お母さんやお父さんといっしょに話をします。なぜかという、校長先生が作って下さる「みんなとともに」という清明だよりは、毎回学校の事を中心にいろいろな事が書いてあってすごいなと思うからです。学校に行くと、校長先生には会えるのですが、「みんなとともに」を読んでいると、校長先生がとても近くでお話してくれているような気持ちになって楽しいです。コロナウイルスの事もあって、なかなか自由に会えない人がいたり、今まで平気でできていた事もできなくなったりしたけれど、いろいろな事が書いてある「みんなとともに」の清明だよりが、わたしは大好きです。また次の「みんなとともに」がわたされたら、校長先生のお気持ちを考えて、また読んで家族とお話するのが楽しみです。

私は校長になってから、毎週金曜日に「学校だより」を発行することを“習慣”にしてきました。何もネタが浮かばず、「今週はもうだめか」と思うこともしばしばですが、何とかここまで続けています。

「小さな読者」が楽しみにしているのならば、来年度末の退職の日まで、心ウキウキさせながら、“ネタさがし”をしていこうと思います。「小さな読者」からのエールを、しっかり受け止めました。